

## 学力向上について

- 1 事業名 「未来を拓く」学力サポート事業
- 2 実施時期 平成27年度～平成29年度（3ヶ年）
- 3 事業内容 平成26年度に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果を受け、小学校及び中学校の児童・生徒において、基礎・基本的な知識の定着、思考力・表現力等、応用力の定着について主体的に取り組まなければいけないという課題が明らかになった。  
学力向上対策として学力向上推進員1名（教育委員会事務局）及び学力サポートティーチャー3名【モデル校3校（小学校2校・中学校1校）】を配置し、指導・支援することにより、教員の指導力向上を図り、前記の課題改善とその成果を全市に広げる。
- 4 平成26年度における現状及び課題
  - (1) 基礎・基本の知識を問うA問題において、小学校では国語・算数で、中学校では国語で全国平均を下回った。
  - (2) 基礎・基本の知識を活用する力「応用力」を問うB問題において、小学校・中学校全教科において、全国平均を下回った。
  - (3) 小学校・中学校の全ての教科、多くの設問において、無回答率が全国平均より高かった。学力だけでなく学習意欲といった面からも不十分である。
- 5 事業内容及び取り組み
  - (1) モデル校（3校）に経験豊富な優れた指導力を有した教員OB等を、学力サポートティーチャーとして配置し、各モデル校の課題やテーマに基づいた実践研究を実施、個に応じたきめ細やかな指導体制の確立、教員の指導力向上のための実践的な校内研修の充実、小・中が連携した9年間を通じたスムーズな接続を行う。
  - (2) 教育委員会学校教育課に、専門的な知識・経験のある管理職OB等を、学力向上推進員として配置し、指導・支援することにより、学校・教員の指導力向上を図り、学校訪問を通じた指導力向上を支援、学力調査結果の検証等による、効果的な教育施策の検討実施、家庭学習に関する保護者啓発資料作成・発信、先進地視察研修を通じて深めた見識を本市の学力向上に生かす。
  - (3) モデル校の成果を全学校に普及するため、モデル校や特色ある取り組みを実施している学校による実践発表会の開催、学力向上推進フォーラムの開催、ICTを活用した指導力養成研修会の開催、情報ネットワークを活用した研修会で集約した教材等の共有を図る。
- 6 平成29年度実施結果（正答率を全国平均及び県平均と比較）
  - (1) 小学校① 国語A及びBについては、概ね、全国平均より高く、県平均より高い。  
② 算数A及びBについては、全国平均より高く、県平均より高い。  
③ 回答欄に記入がない、無回答率が前年に引き続き全国平均と比較し減少しており、問題に対して最後まで諦めずに粘り強く解こうとする傾向が見られる。
  - (2) 中学校① 国語A及びBについては、全国平均より高く、県平均より高い。  
② 数学A及びBについては、全国平均より高く、県平均より高い。  
③ 回答欄に記入がない無回答率は、国語・算数ともA問題では前年度より減少しているが、B問題においては、全国平均を前年同様に上回る傾向が見られる。
- 7 今後の活用

平成30年度以降についてはモデル校の指定は行わず、学力サポート事業の3年間の成果と反省点を踏まえ、PDCAサイクルの実践を慣習化するとともに、生活規律及び学習規律についての指導により、学力向上に向けた取り組みを行うこととする。

なお、本事業については、文部科学省（初等中等教育局学力調査室）において「（仮称）学力向上モデル校の授業改善とその成果を全市に広げる取組事例」として取り上げられ、活用事例として全国に紹介されます。